

【説明資料】 発明・工夫作品コンテスト 製作の動機または目的、利用方法、作品自体やその製作過程で工夫したことを、文章、写真、図などで説明。この用紙1枚に記入し、PDF ファイルに変換した後、ホームページに貼り付けてください。

学校名	九州産業大学	個人・グループ名	諫見研究室	作品名	CASE STUDY ～立方体の箱の構成による展示装置の研究～
-----	--------	----------	-------	-----	------------------------------------

製作のきっかけ（動機）と目的

昨年12月、私たちがフラワーアレンジメントスクール・リースガーデン（北九州市小倉北区）から、同スクールの作品展で使用する展示装置の設計・製作を依頼されたことが、この活動のきっかけです。そこで私たちは、持ち運びが容易で簡単にたくさん作れる展示装置とすることを目的に、立方体の箱（CASE ケース）を設計して、模型を使って展示方法を研究（STUDY スタディ）し、その成果として展示装置の実物を製作・納品することになりました。

設計（工夫したこと）

私たちが設計した箱は、400mm×400mm×400mmの1面だけ空いた立方体で、厚さ9mmのシナベニ合板5枚を12本のビスで止めるものです。この箱は、人が座ったときにちょうど良い高さであり、A4サイズのものがすっぽり入る大きさになっています（右図）。私たちは日本学術振興会（ひらめき・ときめきサイエンス）からの助成を受け、箱を80個製作することになりました。



量産可能 ビス止めだけの簡単な製作方法

主役は展示物…

脇役としてのシンプルな形態

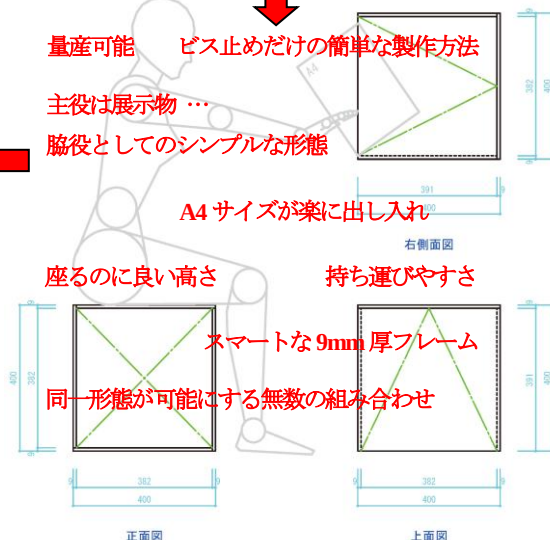
A4サイズが楽に出し入れ

座るのに良い高さ

持ち運びやすさ

スマートな9mm厚フレーム

同一形態が可能にする無数の組み合わせ



研究（利用方法／模型による検討）

私たちは箱の1/5の模型を製作し、積み上げたり空いた一面の向きを変えたりすることにより、約40通り以上の組み合わせと、箱を使用した展示方法を検討し、その結果をリースガーデンに提案しました。組み合わせ・展示方法は無数です。



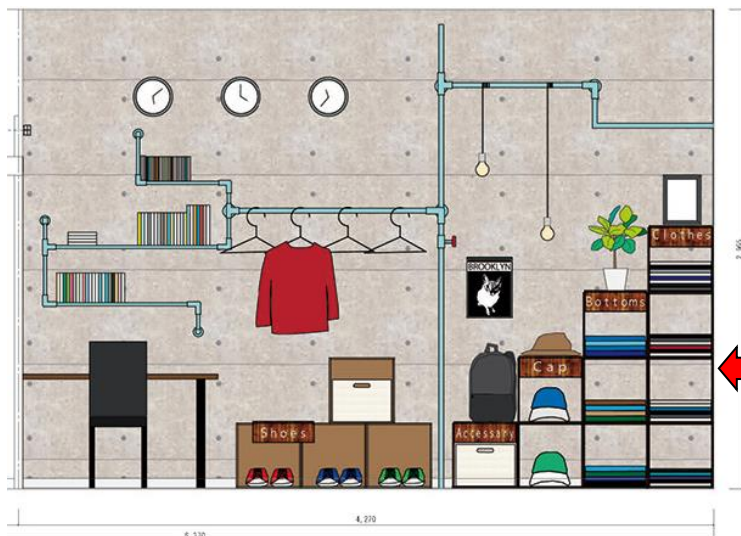
使用（利用方法／実物の展示会での使われ方）

11月、リースガーデンの作品展が門司港旧大連航路上屋多目的室（北九州市門司区）で開催されました。作品展では実際に私たちが製作した箱が使用されることで、展示装置としての可能性を、大変強く感じることができました。



製作（高校生対象ワークショップ）

今年7月、私たちは大学のオープンキャンパスに来た高校生に、模型で箱の組み合わせを自由に考えてみるワークショップを楽しんでもらうことができました。さらに箱の実物を高校生と一緒に製作しました。その結果、計画どおり80個の箱を製作することができました。なおこのうち8個は、オープンキャンパスの様子を観察したリースガーデンの要望で、前後2面が空いた箱としました。その後、箱の納品を終えました。



研究の発展（企業との連携）

この箱は用途を決めようことなく、私たちの生活をもっと自由に、より豊かにすることが可能です。12月、そうした多様性が認められ、この箱は株式会社レオパレス21の単身者向けマンションのモデルルームでの活用が決まりました。現在私たちは、その実物を製作・施工しています（左図）。

詳細説明 <http://isami.biz/?page=page59>